# タイ国における学校防災教育の推進

海外事業部 技術部 加藤 泰彦

タイ国は2004年12月のインド洋大津波による甚大な被害を契機に、防災体制強化に向けたさまざまな取り組みを行っています。災害に強いコミュニティづくりの一環として当社が実施した学校防災教育の推進活動を紹介いたします。

## タイ国防災能力向上プロジェクト

タイ国では、津波のみならず、気候変動による異常気象多発と無秩序な開発の進行に伴い、洪水や土砂災害など他の自然災害も年々激しくなっています。

そこで、タイ国政府による防災体制強化への取り組みを支援するため、国際協力機構(JICA)は「防災能力向上プロジェクト(2006年8月～2008年8月)」を実施しました。当社を含む共同企業体がプロジェクトを受託して、10名からなるJICA専門家チームとして現地に派遣され、2年間活動を実施しました。

プロジェクトでは、コミュニティでの防災活動強化に重点を置き、住民が自然災害に備え、対処する能力を高めることを目的としました。この際、一般住民向けのみならず、コミュニティ内の学校での防災教育も重要となってきます。ここでは、当社派遣専門家が実施した学校防災教育の概要を紹介いたします。

## モデル小学校での研修ワークショップ

プロジェクトでは、タイ地方部の洪水、土砂災害、津波の頻発地域から各1箇所、計3校のモデル小学校を選定しました(写真1)。各モデル校で以下の3つの防災授業を教師が児童に自力で教えることができるようになるまで、研修ワークショップを繰り返し開催しました。

①防災副読本による授業(教室で知識を習得する)
②災害図上訓練(児童の自発性を引き出す)
③避難訓練(行政と連携して活動を実践する)

写真1 モデル校教室の壁に残る洪水の痕跡
(2005年8月のタイ北部大洪水直後の状況。
現在は、行政・住民・学校の共同活動で無事復旧している。)

また、支援対象であるカウンターパート機関の教育省自らが主体となって防災教育活動を企画・運営していく能力を高めていくこともワークショップ活動の大事な目的です。

### (1)防災副読本による授業

授業実施に先立ち、防災副読本と教師用ガイドからなる教材(案)を首都バンコクの教育本省でカウンターパート職員とJICA専門家が協同で開発しました。

ワークショップでは、毎回、教材(案)内容について、モデル校教師、周辺の中・高等学校教師、地方教育事務所、教育本省など参加者全員が平等な立場で話し合いながら改訂を進め、完成版に仕上げていきました(写真2)。

写真2 モデル校での防災教材の内容協議

教材開発と平行してJICA専門家が、その後はカウンターパート職員がトレーナーとなって副読本(案)を用いた模擬授業を行い、モデル校の教師を訓練しました。最後に、訓練を受けたモデル校の教師が、小学4～6年生を対象に授業を行いました(写真3)。

子どもはもし授業がつまらなければおしゃべりやいたずらを始めてしまいます。少々心配しつつ、3モデル校での授業の様子をモニターしてきましたが、どのモデル校の先生も授業の進め方がうまく、子ども達はおよそ1時間、最後まで楽しそうに話に聞き入っていました。

写真3　訓練を受けたモデル校教師による授業

写真5　住民とモデル校の児童・教師による合同避難訓練

### (2)災害図上訓練

副読本による受身の授業だけでなく、自ら考え、判断する参加型活動により、楽しみながら学習意欲を高める工夫が必要との観点から災害図上訓練を実施しました(写真4)。

これも副読本による授業と同様に教師が訓練を受け、次いで教師が児童を指導する過程を経て行いました。

グループ分けされたモデル校の児童が、教師の引率で自分達が住むコミュニティを実際に歩き、危険(安全)な場所、避難場所・ルートなどを自分達なりに調べ、結果を地図にとりまとめました。その後のグループ毎の発表と質疑応答では面白い発表や質問が続き、教室は笑いに包まれ大いに盛り上がりました。

写真4　モデル校の児童による災害図上訓練

### (3)避難訓練

モデル校が位置するコミュニティでは、もう一つのカウンターパート機関である内務省防災局も住民対象の防災活動ワークショップを開催していました。そこで、教育省と内務省が連携して、一般住民とモデル校(児童・教師)による合同避難訓練を実施しました(写真5)。

ちなみに、従来ほとんど接点がなかった両機関は、当初はぎくしゃくした関係でしたが、コミュニティでの協同活動を通じて、次第にうまく連携するようになり、プロジェクト終了後も良好な関係を続けているようです。

なお、一連のワークショップの模様は多くのメディアにより報道されました。タイのテレビ・新聞はもちろんのこと、日本からもNHK取材班が2回現地に来ました。

## プロジェクトの今後

プロジェクトは2008年8月をもって成功裏に終了し、防災教材の完成・印刷、タイ全土の小・中・高校(約3万2千校)への配布、今後の活動拠点として、新たな3箇所でのモデル校の確立までを完了させました(写真6)。

将来は、各モデル校を拠点として他の災害頻発地域への防災教育の本格的な展開・普及を推進する必要があります。教育省は課題達成に向けて、内務省防災局と協同でプロジェクトのフェーズ2による支援継続をわが国に要請してきました。現在、日本政府が要請の妥当性を検討している段階で、支援継続の実現が望まれます。

写真6　開発した防災副読本及び教師用ガイド